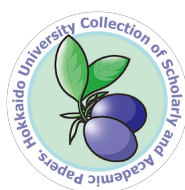




HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	サブカルサブリ第23回：祝『神様はじめました』アニメ化！
Author(s)	山村，高淑
Description	埼玉新聞2012年10月20日版、特集「サイタマニア」、p.2
Citation	埼玉新聞
Issue Date	2012-10-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/50339
Type	article
File Information	20121020Saitamania subcul suppl No.23.pdf



山村高淑の

サブカル サブリ

アニメや漫画の舞台地が多い
サブカル王国・埼玉。その魅力
を「アニメツーリズム」の専門
家、山村高淑氏が紹介する。



■原作の魅力とアニメの魅力

鈴木ジュリエッタ先生、『神様はじめました』アニメ化おめでとうございます！

鈴木先生ご自身も、単行本第2巻でコメントを書かれています。本作はいわば「妖怪学園コメディ的な少女漫画作品。少女漫画というところどころした複雑な恋愛関係を描いた作品が多い今日この頃。男性としては頭がこんがらがってしまうことが多いのですが、『神様はじめました』は非常にわかりやすく、毎回さわやかな印象の残る作品です。コミカルな表現を随所に盛り込みつつも、人を想うこと・人から想われることの素敵さ、「ときめき」が直球で描かれているストーリー。何より、明るく何があってもへこたれない主人公・桃園奈々生のさわやかさ。彼女のように、女性読者から見ても男性読者から見ても魅力的な主人公って、少女漫画ではなかなか珍しいのではないのでしょうか。

いずれにしても、私にとって久々にはまった少女漫画作品。男性にもお勧めです。なお本作品は『花とゆめ』（白泉社）に2008年6号から連載中です。

祝『神様はじめました』アニメ化！

■大地丙太郎監督によるアニメ化

さて、この少女漫画の良作がTVアニメ化です。監督は、同じく少女漫画『赤ずきんチャチャ』をアニメ化する際に演出を務め、そのギャグ路線が高く評価された大地丙太郎氏。大地監督を中心としたクリエイターが集結して、原作のテイストを活かしつつも、いかにTVアニメとして総合芸術作品化するのか？私としては、まさにここが今回の最大の見どころだと思っています。原作も十分テンポが良いのですが、これに色と動きと音（声・効果音・音楽）を加えることで、総合芸術作品に仕上げていくのがアニメ化なわけです。テンポの良さや、コミカル・シリアスどちらの演出も定評のある大地監督です。クリエイターの皆さんとともに今後どのような作品に仕上げていくのか、本当に楽しみです。特に、原作の持つ、少女漫画でありながら女性も男性も楽しめるという面白さを、アニメとしてどこまで表現できるのか、期待が高まります。

■必見のオープニング

ところで、TVアニメの特徴のひとつ

つは「視聴者が毎回オープニングを見る」ということです。繰り返し見ることで強烈な印象を残します。実は聖地巡礼ブームが起きた作品のオープニングの多くに共通するのは、「耳に残る曲」「実際のモデルのある風景」「登場人物」という要素を印象的に組み合わせている点です（もちろん作品本編の中身が大事なことは言うまでもありませんが）。いずれにしても、オープニングで、いかに視聴者の耳と目と心を虜にできるかがTVシリーズアニメでは重要なのです。

それを踏まえて、『神様はじめました』のオープニング。早速癖になりました（笑）。何度も繰り返し見ています。透明感のあるハナエさんの声、琴の音が妙に残るテンポの良いリズム、そして川越の素敵な街並みを背景に歩く主人公の奈々生。でも、これだけだと単に昭和っぽいオープニングになってしまうところを、画面いっぱいには歌詞を埋め込んで背景の一部にした大胆な演出で、極めてポップなオープニング映像に。そのセンスの良さには脱帽です。ちなみにエンディングの曲は、『神様お願い』。あのザ・テンプターズの1968年の名曲をハナエさんがカバーしたものです。

■「ときめき」と「懐かしさ」

人間と精霊や妖怪との交流を描いた作品の代表的なものに『蟲師』や『夏目友人帳』がありますが、『神様はじめました』をこれらの作品と同じジャンルとしてくくってはいけません。TVアニメの第一話冒頭で山崎バニラさんが「ちゃんと言わなきゃダメです。最後までおときめきあれ！」と断言しているように、本作はまさに少女漫画の王道要素「ときめき」が凝縮された作品なのです。それも、神様・神使・妖怪などの登場人物の間で毎回いろいろな「ときめき」が描かれるという、考えてみればこれまでに無かった、ある種不思議なテイストの作品です。

土俗的な信仰を題材に採っている点も、主人公が神様になってしまうという設定も、ものすごく日本的です。この作品を見ていると、ふと「これって神話や昔話にあった話？」と思ってしまうくらい、日本人の心にすっと入ってきます。そうしたある種の「懐かしさ」が、この作品の不思議な安心感につながっているのかも知れません。

秋の夜長、原作とアニメ、双方をじっくり味わって頂きたい作品です。